



第1回「日本ダウン症会議」での分科会発表者⑥

アドボケート(advocate)とは、障がい者の権利擁護のための支援・擁護・代弁する人の意味。この企画では、当事者が自ら、自分の言葉で、今の生活についての思いを発信します。

ぼくたちにも、もっと機会を！

三好 宏樹 (30歳・北海道)

ハンディキャップを持っていてもスポーツを楽しむ機会をたくさん増やして欲しいです。

僕は、スポーツが大好きです。水泳、ボウリング、マラソン、競技スキーを楽しんでいます。

大好きなスキーを続けるために、苦手なことにも取り組みました。つらい時もあるけれど、アルペンスキーが大好きなので、頑張れます。僕は、スキーと出会えて、幸せです。だから、みんなにも、スポーツを楽しんで欲しいです。

ハンディキャップを持っていても参加できる、スポーツ教室やクラブ、サークル活動がたくさん身近にあり、みんながスポーツを楽しむ機会がふえることを望みます。スポーツをする場所が増えれば、スポーツが楽しめる人が増えるし、競技する人も増えると思います。そのためには、スポーツを教えてくれる指導員もたくさん増えたら良いと思います。

僕も将来は、障がいを持っている子どもがスキーを楽しむお手伝いをしたいと思います。

知的障がいを持っていても高等養護学校や養護学校を卒業した後、学べる場所を造って欲しいです。

僕は、YMCAライフスキルラーニングコースと出会えて本当に幸せでした。色々な経験をつみ、仲間達と一緒に、一步一步成長して来た、とっても楽しい3年間でした。考える力がついて自信ができました。そういう場所があればみんなも素晴らしい経験ができ、仲間達と楽しい生活ができると思います。

だから、高校を卒業してすぐに働くのではなく学べる場があれば良いと考えました。

僕は、知的障がい者の生涯学習の場『さっぽろオープンカレッジ』にも、予定が合えば、参加しています。国際理解と書道の講座が大好きです。学ぶことはとっても楽しいです。

区民センター等でいろいろな文化教室が開催されています。仕事が終わった後や休日に行ける文化教室があると嬉しいです。僕は、カラオケ、ペン習字、英会話の教室があれば嬉しいです。

将来は一人暮らしをしたいです。でも、今は競技スキーを続ける事を優先しています。

これからも、頑張っても出来ないことは、胸をはっていろいろな人に助けてもらいながら、多くのことに挑戦したいです。

<プロフィール>

1988年札幌市生まれ、次男。地域の小、中学校の特別支援学級、高等養護学校を経て、YMCAのライフスキルラーニングコースに進学。今は、NPO法人アラジン(就労継続支援B型)で働いている。ヨサコイやスポーツ、映画を見たり、街をぶらぶらしたり、一人で出かける事も楽しんでいる。近況としては、北海道知的障がい者福祉協会主催の芸術祭『みんなあーと2018』に、ダウン症の後輩と2人芝居で出演。21チーム参加の中、初出場でグランプリを受賞。2月にはアルペンスキーの世界選手権に今年から新設されたダウン症カテゴリーで金、銀メダルをもらい、7月の末には、他のオリンピック、パラリンピック等のメダリストと一緒に、文部科学省スポーツ功労顕彰(金メダル)、国際競技大会優秀者等表彰(銀メダル)を受賞。



※これまで会報に掲載してきたこのコーナーの記事を JDS のホームページですべてご覧いただけます。

トップページ上段「ダウン症のあるお子さんを授かったご家族へ」⇒「主張するセルフ・アドボケートたち」